

# ロタウイルス



## ロタウイルスってなあに？

ロタウイルスは乳幼児に多く起こる感染性胃腸炎の原因となるウイルスのひとつです。ロタウイルスには多くの種類(型)があり、5歳頃までに少なくとも1回以上は感染を経験するといわれており、特に重症化しやすいのは生後6カ月から2歳までの乳幼児です。

毎年冬から初春にかけてロタウイルスによる感染性胃腸炎の流行がみられ、感染すると2～4日の潜伏期間を経て発症します。嘔吐、水のような下痢を繰り返すのが特徴的な症状で、発熱を伴うことも多くみられます。通常これらの症状は1週間程度で治りますが、重症になると、嘔吐と下痢により体の水分が失われ、脱水症状が続いたり、けいれん、脳症などの合併症が起こることがあります。

感染経路は主に、便の中に出てきたロタウイルスが手などを通じて口に入ることによる糞口感染といわれています。強い感染力を持ち、わずかなウイルスで感染し、体外の環境にも強いいため、ロタウイルスに汚染された水や食べ物を口にしたり、おもちゃをしゃぶったりするだけでも感染します。

そのため、日本では総患者数が年間約80万人に及び、患者の15人に1人が入院していると推定されています。

ロタウイルス胃腸炎になると、原因となるウイルスに対する薬剤がないため、対症療法(症状をやわらげる)しかありません。何度か感染することで免疫がつきますが、ワクチン接種により免疫をつけることで、ロタウイルス胃腸炎を予防することができます。

WHO(世界保健機関)はロタウイルスワクチンの乳児への定期接種を勧奨しています。



## 接種を受ける時期と間隔は？

ロタウイルスワクチンは経口接種するワクチンです(2回接種ワクチンと3回接種ワクチンの2種類あります。)

※初感染(1回目の感染)が重症化しやすいので、ワクチンで早めに予防しましょう。

### ●対象者・回数

#### [2回接種ワクチン]

生後6週から開始し、4週間以上の間隔をおいて、24週までに2回接種します。

#### [3回接種ワクチン]

生後6週から開始し、4週間以上の間隔をおいて、32週までに3回接種します。

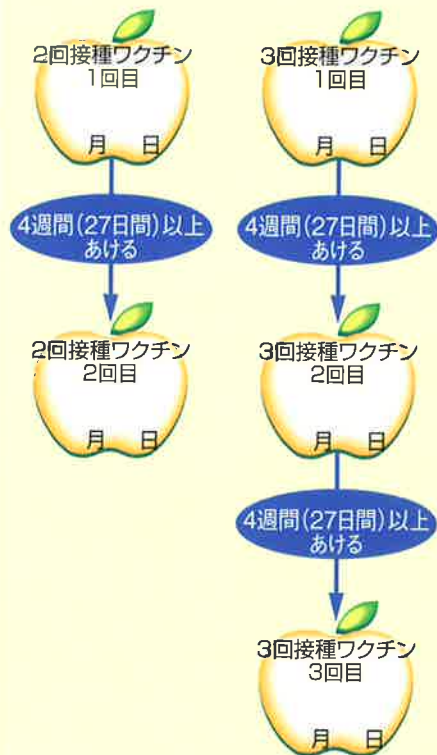
※なおロタウイルスワクチンは、どちらのワクチンも

初回接種は生後14週6日までに行うことが推奨されています。

※異なるロタウイルスワクチンを交互に接種しないでください。



### ●接種日



## ロタウイルスワクチンの副反応は？

●いらいらする、怒りっぽいなど周囲の刺激に対して反応しやすくなる(ぐずりなどの易刺激性)、下痢、咳や鼻水がでるなどの副反応が報告されています。

●また頻度は不明ですが腸重積症が報告されています。接種回にかかわらず接種後に腸重積症の症状(ぐったりす

る、顔色が悪い、繰り返し起きる嘔吐、血便、お腹の張りなど)が見られた場合は、すみやかにかかりつけ医に相談してください。

※決められた期間内に接種を完了しましょう。